大牟田市立明治小学校

1　学習に取り組んでいる主な分野

☐生物多様性	☑海洋	☑防災・減災	☑気候変動
☑エネルギー	☑環境	☐文化多様性	☑世界遺産・文化財
☑国際理解	☐平和	☐人権	☐ジェンダー平等
☑福祉	☐生産と消費	☐その他（　　　　　　　　　　）	

2　ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「かかわり、つながり」を活動テーマとして、ＥＳＤを「人間性を育むとともに、他者、社会、自然環境との関係性を認識する教育」と捉え、持続可能な開発および持続可能なライフスタイルについての実践を通して、「体系的な思考力」「持続可能な発展に関する価値観」「コミュニケーション能力」の育成を目標としている。

具体的には、エネルギー環境教育、国際理解教育を柱に、「地域のひとや環境に係る活動」「エネルギー環境に関する課題に係る教育」「外国語活動、外国語科の学習と関連させた国際理解に係る学習」を行った。

3　特徴的な活動事例の紹介

○　エネルギー環境に係わる学習

エネルギーの消費と環境への影響、環境保全のための取組などについて、生活科や総合的な学習の時間を中心に「エネルギー環境教育」を教育課程に位置付け、学習を行った。

各学年の発達段階を踏まえ、低学年では、自然への親しみとエネルギーを大切にする心情を、中学年では身近なエネルギーと環境問題についての理解を、高学年では地域や大牟田市へと意識を広げながら「省エネ・省資源」「自然環境の保持・美化」への実践と発信を目標に設定し、体験的な活動を通しながら系統立てた指導を行った。

そして、自分事としてエネルギー環境についての課題を捉えさせ、校内や家庭、地域へ向けて発信や実践を行った。

具体的に、１年生は、地域の民生児童員の方々にあさがおの植え方を教えてもらいながら、緑のカーテンづくりを行った。

２年生は、運動場の落ち葉を使った腐葉土を使って野菜作りを行い、自然の力の素晴ら

しさと共に、そのよさや喜びを実感した。

３年生は、校庭にある樹木の種類や特徴、よさ等について調べ、自然環境について考えたり、太陽エネルギーを利用してさつまいもを使ってエコクッキングを体験する活動を行ったりした。そして、太陽光を中心としたクリーンエネルギーについて調べ、環境のために自分達に実践できることを考えた。

４年生は、RDF センターやエコサンクセンター、リサイクルプラザ等の施設を見学・調査し、ごみの処理方法や分別方法、バイオマス発電、ごみを減らすための地域の取組等を理解し、環境保全について考え、解決方法を話し合った。

５年生は、校区の川にすんでいる生き物や水質の調査を行った。家庭排水が環境汚染の主な原因であることを知り、給食の食器をパンで拭くなど、自分達にできる身近なことから取り組んだ。

６年生は、石炭産業と共に発展してきた市の歴史と公害、生活環境に配慮したまちづくりを進めている現在の市の施策について考えることで、エネルギーミックスの考えや未来の大牟田について自分達にできることを考えた。

○　相手意識･目的意識をもって主体的にコミュニケーションを図る国際理解教育

外国語科、外国語活動、英語活動の学習と関連させ、学級の友達だけではなく、異学年や家庭、教師と積極的にコミュニケーションを図ることができるような目的、場面・状況等を設定した。４年生は、様々な先生にピザの好きな具材を尋ねて THANK YOU カードとして贈る活動を行った。5 年生は、中学校に勤務しているジャマイカ出身の先生に、自分のお気に入りの場所について理由を付けて紹介した。6 年生は、クラスの友達や外国出身の先生に「行ってみたい」と思わせるように、自分のおすすめの国を紹介する活動を行った。相手の伝えたいことを反応しながら聴いたり、自分の思いが伝わるように話したりする経験を通して、日常生活でも相手意識や目的意識をもってコミュニケーションを図ることの大切さを実感した。

３　今後の活動計画

令和７年度も、エネルギー環境教育、国際理解教育を柱として体験的活動や探究活動をさらに充実させていきたい。そのために、以下の点に留意して取り組む。

１　全教科・全領域にまたがるＥＳＤの実践を通して、ＰＤＣＡサイクルを確立させながら、令和６年度の実践をさらに高めていく。

２　ＥＳＤでねらう資質・能力の系統性を意識し、身近な「ひと・もの・こと」と ICT を最大限活用するとともに、教師の指導力のブラッシュアップを図る。

３　SDG７・11 の実現に向けて実践していることを全児童に意識させ、発信する場や方法を提案し、活動を広げていく。